

閉会中審査での委員からの指摘事項と対応

○野球場について

指摘 1	ドーム球場の天井高について決定根拠を整理すること。
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公認野球規則にはドーム球場の天井高に関する規定はない。 ・ ドーム球場毎に打球が天井等に当たった場合の特別ルールが存在する。 ・ 建設年次が新しい野球場ほど天井高が高い傾向がある。 ・ 近年では、ホームランボールのシミュレーションや打球の軌跡データを基に天井高を決定している。

指摘 2	照明のない小規模なスタンドの野球場についても提案すること。
対応	資料 2

指摘 3	現在検討している野球場タイプについて利用料金等を提示すること。
対応	資料 3

指摘 4	基本構想と基本計画の概算事業費の差を埋める方法を考えること。
対応	設計・施工段階におけるコスト縮減、PFI 事業など民間資金の活用、クラウドファンディング、地元負担等が考えられる。

○官民連携について


指摘 5	一般的な P F I 事業の説明資料と併せてシミュレーションも提示すること。
対応	資料 4

指摘 6	過去に委員会に提出している P F I に関する資料をブラッシュアップすること。
対応	資料 5

○その他

指摘 7	小規模な野球場におけるプロ野球公式戦の開催の可能性について調べること。
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロ野球球団への聴き取り調査では、地方開催の興行収支を考えると 1 試合当たり 1.5 万人～2.0 万人の集客が必要との話があった。 ・ しかしながら、小規模な 1.0 万人～1.4 万人の球場においても球団の方針と合致すれば開催している実績があるとのことであった。

資料2 照明のない小規模な野球場の概算事業費等

野 球 場				
	(c) Google Earth 清水庵原球場		(c) Google Earth 浜岡球場	
野球場の規模	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収容人数1万人 ・ 全国高校野球選手権静岡県大会準々決勝までの試合を開催 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 収容人数6千人 ・ 全国高校野球選手権静岡県大会2回戦までの試合を開催 	
野球場の構造	<p>外野スタンド：盛土構造（植樹帯）、芝生（座席なし）</p> <p>外野スタンドを盛土構造（樹林帯）にすることで防風効果は低くなるものの、事業費が抑えられると共に緑化にも寄与する。</p>			
照 明 の 有 無	照明あり	照明なし	照明あり	照明なし
概 算 事 業 費	70 億円	60 億円	40 億円	30 億円
年間維持管理費 (大規模修繕費含む)	1.1 億円	1.0 億円	0.8 億円	0.8 億円
年間直接消費額(県内)	1.7 億円	1.6 億円	1.3 億円	1.2 億円
年間経済波及効果(県内)	2.9 億円	2.8 億円	2.2 億円	2.1 億円
年間球場利用者数	7.0 万人	6.7 万人	5.3 万人	5.0 万人

- ・ 概 算 事 業 費：既存球場の建設費を基に面積比率、物価上昇率を考慮し算出
- ・ 年間直接消費額：メイン球場利用者が県内で消費する交通費、宿泊費、飲食費、お土産・買い物代、入場料・施設利用料の合計
- ・ 年間経済波及効果：年間直接消費額を静岡県産業連関表に投入し県内における経済波及効果を算出

整備プラン	【タイプA】	【タイプB】	【タイプX】
	草薙球場相当（2.2万人）		
野球場イメージ	 (c) Google Earth ZOZO マリンスタジアム	 盛岡南ホールパーク(株) 提供 (仮)盛岡南公園野球場	 (c) Google Earth 札幌ドーム
野球場の規模	<ul style="list-style-type: none"> ・収容人数2.2万人（草薙球場規模） ・プロ野球の試合を年数回開催する規模 		
野球場の構造	外野スタンド： コンクリート構造、座席あり	外野スタンド： 盛土構造(樹林帯)、芝生(座席なし)	ドーム構造
利用条件 ※1	野球場利用料金：16,950円（草薙球場一部使用※2を参考に試算） 照明利用料金：8,950円/h（草薙球場1/2灯を参考に試算）		
野球場利用料金(参考)	17千円		17千円
照明利用料金(参考)	0円		76千円
合計(参考)	17千円		93千円

整備プラン	【タイプC】	【タイプD】	【タイプY】
	愛鷹球場相当（1.3万人）		
野球場イメージ	 (c) Google Earth 岐阜メモリアルセンター長良川球場	 (c) Google Earth 静岡県営愛鷹球場	 (c) Google Earth 長浜バイオ大学ドーム
野球場の規模	<ul style="list-style-type: none"> ・収容人数1.3万人（愛鷹球場規模） ・アマチュア専用の野球場 		
野球場の構造	外野スタンド： コンクリート構造、座席あり	外野スタンド： 盛土構造(樹林帯)、芝生(座席なし)	ドーム構造
利用条件 ※1	野球場利用料金：15,600円（愛鷹球場一部使用※2を参考に試算） 照明利用料金：8,950円/h（草薙球場1/2灯を参考に試算）		
野球場利用料金(参考)	16千円		16千円
照明利用料金(参考)	0円		76千円
合計(参考)	16千円		92千円

※1 アマチュア野球に使用する場合 8:30~17:00(8.5時間)とする。

※2 一部使用はグラウンド、ダッグアウト、更衣室を使用する場合のこと。

(注) 空調利用料金は別途掛かると考えられるが県内施設に事例がないため現在調査を行っている。

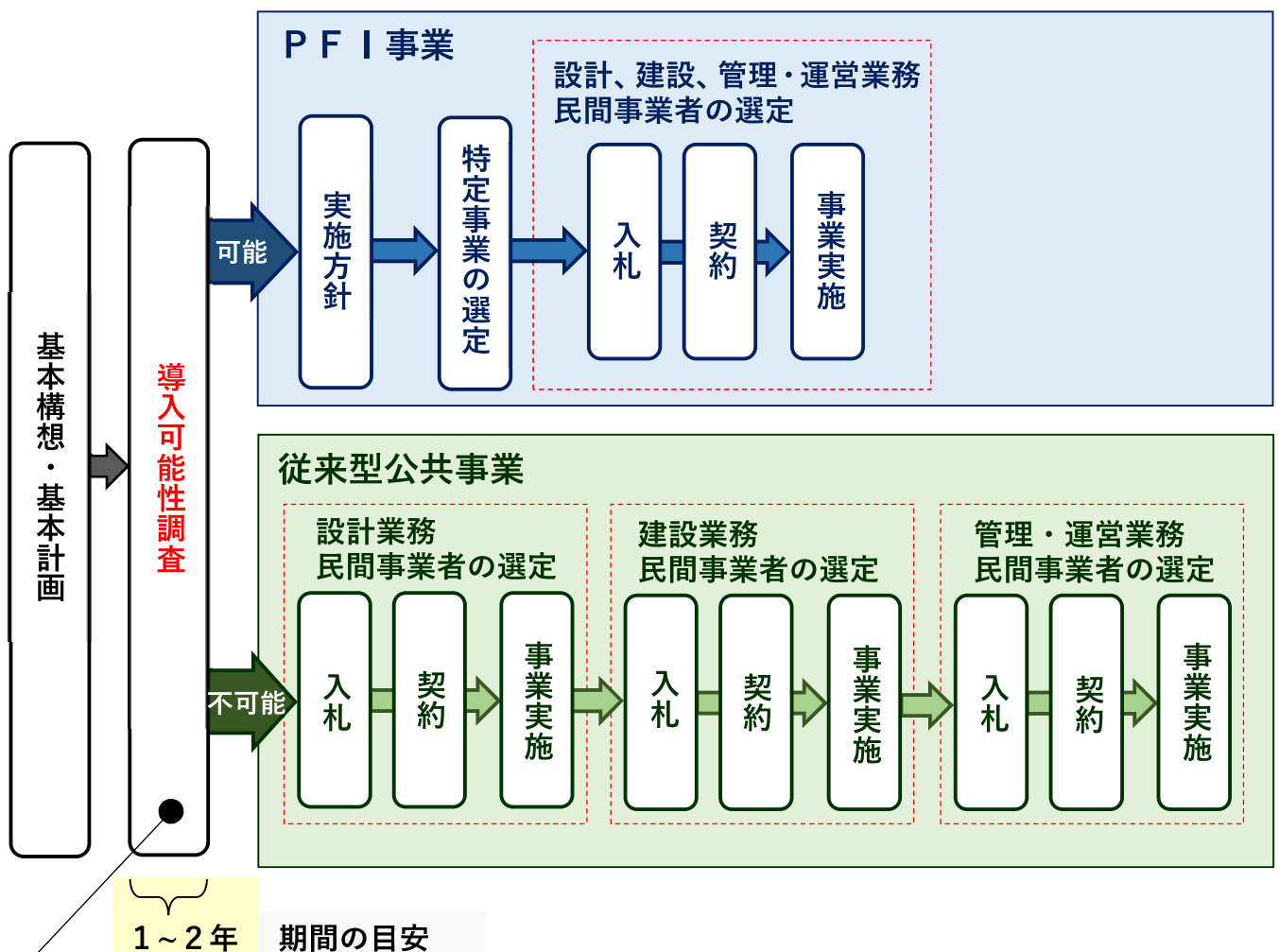
資料4 遠州灘海浜公園(篠原地区) 官民連携の導入に向けて

P F I (Private Finance Initiative) とは

- 公共施設等の建設、維持管理、運営等に民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用することにより、同一水準のサービスをより安く、又は、同一価格でより上質のサービスを提供する手法である。

P F I 事業の進め方

- 基本計画を策定後、導入可能性調査を実施し、PFI 事業として実施する可能性について検討する。
- 実施可能な場合は、PFI 事業として設計、建設、管理・運營業務を一括して事業者を公募し決定する。
- 実施が不可能な場合は、従来型公共事業として設計業務、建設業務、管理・運營業務について、それぞれ事業者を公募して決定する。



導入可能性調査での検討内容

- ・ 事業スキーム(期間、事業範囲 等)
- ・ 市場調査(マーケットサウンディング)
- ・ 事業手法評価 (VFM 評価) ※ 等

※事業手法評価 (VFM 評価)

PFI 事業と従来型公共事業について事業期間全体を通じた公的財政負担の見込額(シミュレーション)を比較評価する。

資料5 遠州灘海浜公園(篠原地区) 官民連携に関する調査・検討

令和3年度	
調査方法	調査概要
プロセス1・情報収集 サウンディング型 市場調査	<ul style="list-style-type: none"> 県、静岡市、浜松市が設けた意見交換の場において民間事業者から聴き取り調査を行った。 参加業種は、建設業、コンサル、不動産開発、金融業など延べ29社
	<p>ふじのくに官民連携実践塾（県主催） 2021年7月30日</p> <p>静岡市 PPP/PFI 地域プラットフォーム 2021年7月28日</p> <p>浜松市 PPP/PFI 地域プラットフォーム 2021年8月3日</p>
アンケート調査	都市公園内に野球場やスポーツ施設が計画されている施設や、官民連携を導入して整備している都市公園等の5施設に調査を実施

令和4年度	
調査方法	調査概要
プロセス1・情報収集 サウンディング型 市場調査	<ul style="list-style-type: none"> 県、静岡市、浜松市が設けた意見交換の場において民間事業者から聴き取り調査を行った。 参加業種は、建設業、コンサル、不動産開発、金融業など延べ11社
	<p>ふじのくに官民連携実践塾（県主催） 2022年8月5日</p> <p>静岡市 PPP/PFI 地域プラットフォーム 2022年7月27日</p> <p>浜松市 PPP/PFI 地域プラットフォーム 2022年7月26日</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 官民連携の実績のある民間事業者から聴き取り調査を行った。 シンクタンク、金融系、大手ゼネコンなど6社

項目	分析要素
官民連携方式を採用する理由	<ul style="list-style-type: none"> 最新機能を有する施設導入や運営管理のノウハウ・アイデア等の民間活力を活用した公園の魅力向上や価値の創出 民間側で公的施設と民間施設を一体的でスピーディな施工 活動団体や大学等と協働した地域連携・持続可能な公園経営
財政負担	<ul style="list-style-type: none"> 効率的な公共施設の整備・管理運営によりコスト縮減が可能 施設整備費が割賦払いとなるため、財政支出の平準化が可能
民間事業者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 行政から公園のコンセプトを提示してもらえれば具体的な話が進む 公共、公益性を重視しながらも、利便性向上施設等に民間の提案が活かされる手法が望ましい 篠原地区は公園の規模が大きく、立地が良いので、導入施設の組み合わせによっては収益性が見込める。

項目	分析要素
民間事業者の意見	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ施設であってもスポーツではない内容で集客するなど多様性を考える必要がある。 野球場の収益はプロ野球の興行次第である。 野球場単体ではなく、公園全体で収益を上げることを考えたい。 PFIは事業期間が長く、近年の社会情勢を鑑みると先行きの不透明さからハードルが高くなっている。 民間事業者は官民連携事業の参画に対し収益が見込めるかどうかをシビアに判断する。 基本計画が定まっていない段階では、シミュレーションは難しい。 リニアの開通やWEB等の通信手段の発達により東京、大阪の2極化が進むことが想像できる。今後、地方で人を集めることは難しくなるのではないか。 一括施工となると設計段階から施工担当の意見を取り入れることが出来るため、時間のロスやコストなどの縮減が可能となる。

プロセス3・検討	
検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> 本公園における官民連携手法の導入の可能性があると分かった。 行政が公園のコンセプトを提示することで、民間がより具体的な検討を進めることができる。 	
方針	
<p>基本計画を策定し、改めて民間事業者と対話をしながら、官民連携の導入についてより具体的な検討を進めていく。</p>	

プロセス3・検討	
検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度に定めた方針に基づき、基本計画の策定と官民連携検討導入可能性調査を進めていく。 	
	